# 建学の精神
## ～仏教精神に基づく人間育成～
## 「謙虚にして真理探究」「誠実にして精進努力」「親切にして相互協同」

学長　森井　秀樹

本学は『仏教精神に基づく人間育成』を建学の精神の基本としています。仏教精神の根本である三宝帰依(帰依仏・帰依法・帰依僧)」を、初代学長の三枝樹正道先生は「謙虚にして真理探究」「誠実にして精進努力」「親切にして相互協同」とわかりやすく表現され、本学の建学の精神となっています。これは本学で学ぶ基本的な心構えをも示しています。

「謙虚にして真理探究」は、自分自身の問題探求心や思考力、解決能力の足りなさを謙虚に反省しつつ学問研究に勤しみ、真実を明らかにすることを意味しているとともに、どのように生きていくか、いただいた「いのち」をどのように生かしていくか、謙虚に今までの自分を振り返りながら、真実に気づき、物事の本質を見極める力を培っていくことが大切であることを示しています。身のまわりのものに目を向け、興味・関心を深め、自分を見つめ直すことの大切さや、自分自身や他者の内面的真実や自然界の営みにおける真実に気づくことに大きな意味があります。この宇宙に存在する人間・動物・植物・モノすべての、かけがえのない「いのち」を大切にして欲しいと思います。「いのち」の存在の意味、宇宙という世界の真理に気づくことの大切さを教えてくれています。

この「謙虚にして真理探究」には、この宇宙に存在する、人間・動物・植物・モノすべての、かけがえのない「いのち」の尊さに目覚める「仏に帰依する」という仏教精神が込められています。

「誠実にして精進努力」は、誠実に社会の秩序を守り、与えられた本分に精一杯努めることが大切であることを示しています。世の中のすべてのものは単独では存在できません。あらゆるものとの関係性(縁)によって成り立っています。私たちは一人で生きているのではなくて、あらゆるものとの関係性の中で生かされています。自然からの豊かな恵みをいただいて生かされていることに感謝し、身のまわりの環境を大切にする心を育んで欲しいと思います。自分一人で生きているのではなくて、まわりのすべてによって生かされていることに気づくことの大切さを教えてくれています。

この「誠実にして精進努力」には、ものごとを、さまざまなものとの関係性の中でとらえていく「法に帰依する」という仏教精神が込められています。

「親切にして相互協同」は、共生(ともいき)の精神で、すべての人・動物・植物・モノと共に助け合って生きていくことが大切であることを示しています。私たちは一人では生きていくことは出来ません。世の中のすべての恩恵を受けて生き・生かされています。さまざまな知識や技術・技能を修得して、この社会の中で、実力者として力を発揮するのみならず、思いやりの心を持ち、社会に貢献する尽力者になって欲しいと思います。そのために、自分自身が思いやりのある心、温かい心、そして感謝する心を持たなければならないことに気づくことの大切さを教えてくれています。

この「親切にして相互協同」には、生かされ生きる共生社会を目指す「僧に帰依する」という仏教精神が込められています。

本学で学ぶ学生のみなさんには、世の中のすべての生きとし生けるものが共に生かされて、平和で希望に満ちた世の中になるようにとの願いが込められている「建学の精神」をよく理解していただき、日々の学業に励んでほしいと思います。そして、明るい希望に満ちた学生生活となることを心より祈っています。